【農水省食堂とのコラボ！夏野菜カレー】　　埼玉新聞　令和８年９月15日付

新　聞
（第３種郵便物認可）

育てた野菜 農水省に

県立特別支援学校羽生ふじ高等学園

食堂のカレーに使用、好評

羽生市下羽生の県立特別支援学校羽生ふじ高等学園（折原裕朋校長、生徒数120人）で栽培した野菜が、農林水産省（東京都霞ケ関）の食堂「手しごと屋　咲くら」の期間限定メニュー「野菜カレー」に使われ、食べた人から好評だった。野菜を通して社会貢献した生徒は、「おいしい野菜を作っていることが県外に伝えられた」とほほ笑んだ。（新井千昌）

好評だった「野菜カレー」（同校提供）

食堂に納品する野菜と記念撮影する生徒（同校提供）

野菜を提供したのは、農業技術科農業コースの2、3年生だ。学校の近くにある遊休農地約4700平方㍍を活用し、年間30種以上の野菜を栽培している。

野菜は校内で売っているほか、収穫時期に合わせて羽生市役所などでも販売。市内の学校給食センターにも納品している。

同校は、農林水産省や関係省庁、関係団体で設立した「農福連携等応援コンソーシアム」の農福連携に取り組む優れた事例を表彰し、全国へ普及や推進していく2024年度の「ノウフク・アワード」で優秀賞を受賞。これがきっかけとなって文部科学省の食堂に昨年12月にハクサイ、今年7月に夏野菜を納品した。

同校は、全国的にも数少ない農業専門の学科がある特別支援学校で、今回、農水省とのコラボレーションが実現した。食堂に提供した野菜は、ピーマンとナス、バターナッツカボチャ、モロヘイヤ、ゴーヤの5種類、計30㌔。野菜カレーは7日から11日まで提供され、調理長から「いい野菜で調理のしがいがあった」と褒められたという。

生徒たちは、食べた人の笑顔を思い浮かべながら野菜を育てている。袋詰めにする時も「落とさない」「つぶさない」を心がけ、けがにも注意しながら作業する。

3年生の男子生徒は「苗を乱雑に扱わないで、一つ一つ丁寧に植える作業を大切にしている」と心構えを語る。女子生徒は「1年生の時から頑張って野菜を育ててきて、良かった」とうれしそう。別の男子生徒も「活動を続けて、学校を有名にしたい」と張り切っている。